

『課題解決型インターンシップ』 古賀市役所 まちづくり推進課 実習報告

課題解決型インターンシップとは、

- ・『実践する力』（学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力）の育成を目的とした、2・3年生対象の選択科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の1つの型。
- ・企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。2名程度でチームを組み活動することにより、自分の専門性を活かしながら他者とチームで働く力を養うことができる。

- 企業名 古賀市役所まちづくり推進課
- 概要 古賀市在住の外国籍市民は5年間で約2倍になり、今後も増加が見込まれている。そこで外国籍市民向けの効果的な情報発信を検討する。
- 課題 外国籍市民に向けた有効的な情報発信手段が少ない。
- 達成目標 外国籍市民の情報取得についての実態を把握し、生活をする上で必要な情報を取得できるよう具体的な提案を行う。
- 提案内容 情報共有に関するデジタルツールについての提案。外国籍市民の方との情報共有の内容充実を提案。

日本(にほん)でがんばるみなさんへのアンケート

ごめい、
みなさんに古賀市からの知らせがとどいているか、とどけるためにどうしたらいいかをききたいです。
にほんごでかえなくていいです。
きょうりよくをおねがいします。

Tôi muốn hỏi mọi người xem họ đã nhận được thông tin từ Thành phố Koga chưa và họ nên làm gì để cung cấp thông tin bản không cần phải trả lời bằng tiếng Nhật. Cảm ơn vì sự hợp tác của bạn.

请问大家有没有收到古贺市的信息，应该怎么做才能传达这些信息。你不必用日语回答，感谢您的合作。

Saya ingin meminta semua orang jika mereka telah menerima informasi dari Koga Kota dan apa yang harus mereka lakukan untuk menyampaikan informasi. Anda tidak perlu menjawab dalam bahasa Jepang. Terima kasih atas kejasmaan anda.

Koga City မှ အသိပေးချက်များကို သင်တို့က ရရှိခဲ့ပါသလား။ သင်တို့က အသိပေးချက်များကို ဘယ်လို ပြန်လည်ပေးအပ်ရမည်ကို မေးချင်ပါသည်။

के जहाँ कीया सहाय करे जानकारी प्राप्त करें सम्बन्धित म कवारी जानकारी प्राप्त कर सम्बन्धित कार्यनी मा कवारी दिन केन। जहाँकी सम्बन्धित को सारी धन्यवाद।



外国籍市民の方が理解できるように
アンケートの質問を多言語に対応させた

アンケート用紙作成中

外国籍市民向けデジタルツール「すまっぼん！」のアイ
コンをわかりやすくする変更案



【インターンシップに取り組んでのコメント】
○社会環境学科 3年 中田 啓吾
企業様へのアンケート協力のお願いや市役所の方々のコミュニケーションは初めてのことであり、スライドや原稿作成においても様々な課題があったので難しかったです。

○社会環境学科 2年 椎山 大暉
インターンシップ研修終了後に振り返ってみると、楽しいことや大変なことなど、本当に様々な経験ができ、1枚も2枚も自分の殻を破ることができました。



まちづくり推進課 国際交流・多文化共生係の皆様

発表後の古賀市長からの質疑応答

・古賀市の外国籍市民の方々という普段関わり合いのない人たちに情報を適切に提供するというので、最初は分からないことだらけで課題も多くありました。しかしアンケートを通して外国籍市民の方々が何を考えているのかなどを知ることが出来ました。このような経験は多くの場面に当てはまると思いました。実際の社会に出ると大半は関わり合いの無い人と作業をする必要があります。なので、今後の大学生活でも積極的にコミュニケーションを取り、社会に出た時に初対面の人でもすぐに順応出来るようにしていきたいと考えています。(中田啓吾)

・インターンシップを通じて、相手の目線に立って物事を考えることが大切であることや、現地の人とコミュニケーションをとり、そこに住む方の声を聞くことが大切だということを学ぶことができました。地域の方など、そこに住む人たちのために活動を行う際に、自分の予想だけで行動をしてしまえば失敗してしまいます。そうならないためには、相手の気持ちになりきり、どのようなことを行えば嬉しいかを考えたり、実際に現地の方の声を聞くことが重要だとこのインターンシップを通して実感しました。今後の大学生活では、プレゼン等の発表をする際に、単に自分の意見を述べるのではなく、これは誰に向けて作るものなのかということを確認し、作成を行うようにしていきたいと思います。(椎山大暉)